



「つらいときも

悲しいときも

うれしいときも

阿弥陀様といっしょですよ。」

慈光照護のもと、門信徒のみなさまにはますますご清栄のことと慶賀に存じます。

今年の夏は本当に暑かったですね。みなさまいかがお過ごしでしたでしょうか。私(若院)は汗かきなので、赤ちゃんのように背中にもタオルを仕込んで生活していましたが、数十年ぶりにあせもができてしまいました。それでも暑さ寒さも彼岸までと言われる通り、最近朝晩は冷えるようになってきました。

さてみなさん、この夏にもこの娑婆世界にはいろいろな事件が起きて世間を騒がせました。その中でも8月に名古屋で起きた、見知らずの3人の男が独り歩きの女性を連れ去り殺害してお金を奪った事件には、言いようのない悲しみをおぼえました。どうし

てこのような事件が起きてしまったのでしょうか。

親鸞聖人は「さるべき業縁(ごうえん)のもよほさば、いかなるふるまひもすべし」(『歎異抄』)とお弟子の唯円(ゆいえん)さまにおっしゃっています。彼ら3人は生活も苦しく、明日が見えない中に日々の生活を送っていたと報道されました。もし、この私もそのような先の見えない境遇にいて、そのような巡り合わせになつてしまったならば、いつたいどんな行いをしてしまったのかもわかりません。それこそが偽らざる私の姿なのです。自己の思いのままに善人になれるほど単純なものではなく、縁によつてどのような振り舞いをするかわからない存在であり、自分でも手のつけようのない煩惱(ぼんのう)の深みをもつものであるというそのような人間のありさまをあらわしておられます。

私たちは煩惱を抱えたまま無明の闇の中で迷っています。その凡夫の私をそのまま救うとお誓いくださいているのが阿弥陀如来(あみだぶつ)さまです。この煩惱具足(ぼんのうぐそく)の私こそが阿弥陀様の救いの目当てなのです。

「つらいときも、悲しいときも、うれしいときも、阿弥陀様といっしょですよ。」阿弥陀如来(あみだぶつ)は光(ひかり)といのちの限りない仏(ぶつ)さまです。私の無明の闇を破し、いついかなるときも智慧(ちえ)のみ光(ひかり)で私のいのちの行き先を照らし続け

てくださいます。報恩感謝(ほうおんかんしゃ)のお念仏(ねんぶつ)をさせていただくばかりです。南無阿弥陀仏(なまあみだぶつ)。

【煩惱】心身を煩らわせ、悩ませる精神作用の総称。貪欲(とんよく)(むさぼり・我欲(わがよく)・瞋恚(しんゑ)(怒り)・愚痴(ぐち)(おろかさ・真理(まこと)に対する無知(みちぎ)を三毒の煩惱(ぼんのう)という。

「報恩講のご案内」

日	10時〜	14時〜	19時〜
16日(火)		大速夜 報恩講作法 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拝読 法話一席
17日(水)	ご満座 阿弥陀経作法 法話二席		

福井市教応寺住職
本願寺布教使
奥田 順誓師(のりかみ)です。

ご法話
報恩講は宗祖・親鸞聖人(おんがら)のご命日(いのちのひ)を中心に行われる真宗最大かつ最も大切な仏事(ぶつじ)です。西本願寺(さいほんがんじ)では1月9日〜16日(新暦に改めた日程)の予定で厳修(げんしゆ)されますが、末寺(すえじ)では「1月にはご本山(ごほんざん)にお参りしましょう」とのこと(こと)で時期(じき)をずらして行っています(おとりに)こし報恩講(ほうおんかう)。

昨年(こぞ)も書き(か)きましたが、どうかお時間(じかん)を作つ

ていただいて、一度はお参りください。お体の都合や行き帰りの手段がない(けどお聴聞したい)という方はご相談ください。

「掲示板ができました」



長い間、西光寺の門前には掲示板がなく、各種ポスターや法要のお知らせなどはベニヤ板に貼り付けてぶら下げておりました。そのため風雨にさらされ、雨で

ベタベタになったり風で落ちてしまうこともしばしばでした。おかげさまでこの夏、立派な掲示板を設置することができました。この費用はご門徒の皆さまからの貴重な護持会費を使わせていただきました。本当にありがとうございます。お寺はご門徒の皆さまのものです。これからお寺の護持運営にご協力をお願いいたします。

「ミャンマーの現状に思う」

日本人のジャーナリストが生命を奪われたこともあって、連日報道されていますので

ご存知と思いますが、ミャンマーの軍事政権が武器も持たない民間人や僧侶を攻撃するなどの暴挙に出ていることはまさに「はずべし、いたむべし」ことであります。西本願寺ではいち早く総理大臣をはじめミャンマー大使館などに声明・要請を出しています。以下に掲載しておきます。一刻も早い平和的な解決を望んでやみません。

内閣総理大臣
福田康夫 様

浄土真宗本願寺派
総長 不二川 公勝

ミャンマーの僧侶・市民への殺傷を直ちに中止することを求める要請

私たちは、今、ミャンマー連邦で起こっている、僧侶・市民のデモに軍が発砲、さらに多くの僧侶が拘束され、パゴダ(僧院)が破壊されているという報道に接し、同じ仏教徒として大変深い悲しみを覚え、憂慮をしています。

かつて、1988年の民主化要求デモの折も、やはり多くの僧侶・市民・学生が軍により逮捕・拘束され、犠牲者は1,000人とも3,000人とも聞いています。再び同じ過ちが繰り返されてはなりません。

お釈迦さまは「すべての者は暴力におびえ、すべてのものは死をおそれる。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」(『ダンマパダ』)と説かれています。

日本政府が、ミャンマー政府に対し、平和的デモを行う僧侶・市民に対する殺傷・弾圧・拘束を直ちに止めさせるための必要な措置を講じられるよう強く求め

めます。

また、日本政府を含む国連等関係国際機関におかれましても、事態の民主的平和的解決に向けての努力を続けられますことを心から念願します。

以上

「お念珠をもちましょ」

お寺におまいりするときも、ご自宅のお仏壇においても、仏さまにおまいりするときは、必ずお念珠(ねんじゆ)を使いましょう。浄土真宗では「数珠(じゆず)」ではなく「念珠(ねんじゆ)」というのが一般的な呼び方です。私たちが人と会うときに身だしなみを整えるように、仏さまにおまいするときは身だしなみとお考えください。蓮如上人は御文章の中でお念珠をもたずにおまいりされる人を「仏をば手づかみにこそせられたり」と、たいへん厳しい調子で戒めておられます。私たちも念仏者として常に心に留めておきたいことでもあります。



「編集後記」

スペースがなくなりました。また次号でお会いしましょう。 合掌